

ご感想、情報は・Eメール o-bunkabu@sankei.co.jp
 ・FAX 06-6633-9869

「きこきこ」ダウン症児の日常知って

ダウン症児者たちの日常をとらえた写真展「世界ダウン症の日写真展 in 大阪」が15日から、大阪市北区の梅田スカイビル空中庭園展望台キヤラリーで開かれる。生き生きとした表情を通じて、ダウン症への理解を深めてもらい、子供を出産し育てる意味を問いかける内容だ。23日まで。

ダウン症は、体細胞の21番染色体が1本多く存在することで、知的発達の違いや心疾患などの合併症を伴うことがある症候群で、およそ千人に1人の割合で生まれる。

写真展は、日本ダウン症協会大阪支部の主催で、関西のダウン症児サークルの協力で開催。ダウン症の人々の暮らしや学び、働く姿を家族らが撮影した100点を展示する。昨年4月、妊婦の血液検査で胎児



100点ずらり写真展

15日から梅田スカイビル

のダウン症などの染色体異常が分かる新しい出生前診断が開始され、波紋が広がった。同協会大阪支部の担当者には、「診断で陽性と判明すると、子供を中絶してしまう。そんな動きに一石を投じたい」と話している。

「世界ダウン症の日」に当たる21日午後0時半には、ダウン症児者によるヘルマンハープなどのミニコンサートも開く。入場無料(空中庭園展望台の入場料が必要)。問い合わせは、同協会大阪支部(☎090・8129・1201)。



岡崎蛍汰くん (日本ダウン症協会大阪支部提供)